

平成27年度 教養ゼミ・地域志向インターンシップ 受入れ 市町アンケート

教養ゼミ	三次市役所 企画調整課	三次市役所 布野支所	世羅町 産業振興課1	世羅町 産業振興課2
良かったところ	受入れ団体が昨年と同じであったため、事前の調整や当日の授業については円滑に行えた。大学側の、こまめな連絡や直接訪問いただくなどの対応により、地域の理解をより得ることができた。三次市(布野)の状況や取り組みを学生に知っていただく良いきっかけとなった。	地域の農業・河川・拠点施設などを体験していただき、三次市(布野町)の魅力を少しでも知っていただく良い機会になっていると思います。これをきっかけに関心を持っていただき、農業や漁業への興味以外に、三次市への観光への興味につながることを期待します。		
改善点	対象が1年生ということもあり、体験を中心とした授業であることは、中山間地域に興味を持つという意味で成果があったと考えられるが、より深く地域を知り、課題を解決していくパートナーとして連携していくためには、更なる検討が必要である。	三次市布野町で受け入れを実施する際、できるだけ地域の魅力を幅広く知ってもらうため、内容を詰め込んでいます。今後も、布野町で受け入れし、継続実施すると仮定した際に、時間的な余裕があまりないため、同様の内容で進めていっても大丈夫かを再検討する必要があるかもしれません。		

インターンシップ	三次市役所 企画調整課	三次市役所 布野支所	世羅町 産業振興課1	世羅町 産業振興課2
良かったところ	土日を含めて、1週間程度の受入れであったため、地域の現状や課題などをより深く理解していただける機会となった。	道の駅としては夏休み時期で多くのお客様が訪れる期間なので、助かる時期でした。受入れをする道の駅の従業員も、人に教えるという立場を経験し、職場内の意識や協力体制の向上にも少しつながったと思います。	事前にインターンに参加される方が来られて、どのようなことを知りたいのか？学びたいのか？ということをお打ち合わせできたのが良かったです。	学生の皆さんが事前学習で課題(問題)意識を持って来町されたので、例年になく、有意義な受入れであったと農家の方々が話されておりました。
改善点	教養ゼミと同様に対象が1年生であるため、より目的をもって、地域・行政と協働し、解決策を探るには、継続的な関わりが重要と考えられる。お盆の時期ということもあり、インターン希望の学生と、事前連絡が取りづらかった。	改善が必要というわけではないですが、この時期の農園の受入れについては、かなりお忙しい時期のため、作業の手伝いという点では問題ないですが、農園からは、あまり学生と一緒にについて細かく教えてあげることができなかったということをお、ちょっと申し訳なかったと言われておられました。		

平成27年度 教養ゼミ・地域志向インターンシップ 受入れ 市町アンケート

広大との連携	三次市役所 企画調整課	三次市役所 布野支所	世羅町 産業振興課1	世羅町 産業振興課2
良かったところ	大学の窓口が一本化されており、円滑に調整を行うことができた。	顔がわかるようになるため、行政だけでなく、地域の方も大学を近く感じられたと思います。	体験授業やインターンシップがきっかけとなり、学生が研究において、本町を取り上げ、継続的な関係を持っている点	いつも細部に渡り、ご配慮いただき、たいへんありがとうございます。
改善が必要なもの		特にありません		
連携が強くなったところ	継続的に事業を行い、十分な振り返りを行うことで、今後も連携が強まると考えられる。	特産品の開発についても検討を進めることができました。これからもよろしく願います。	実施後も定期的に連絡を取り合っているようになった点	町のいろいろな課題を相談させていただいています。
地域貢献の人材が増加すると感じる理由	体験することが地域貢献の第一歩だと考える。その中で、地域に興味を持ち、継続的な関わりが生まれることを望んでいる。	地域への貢献というと大きな結果が必要なように思いますが、布野町だけでなく三次市を知ってもらい、直接地域で働いたりということはないとしても、家族や友だちと三次市の話をしたり、遊びに来るきっかけとなったと思います。もちろん地域で働きたいと考える方がおられたら、とてもうれしいですけど	社会に出る前に地域で実際に活動することで視野も広がると思います。この活動をきっかけに地域に貢献する取り組みをしたいと思う人材が出てくるのではないかと感じました。	
広大と連携して、特に取り組みたい地域課題、急いで解決したい問題	教養ゼミを通じて、参加した学生から提案のあったアイスクリームの商品開発については、引き続き連携して取り組んでゆきたい。	冬に雪が多く積もる地域であるため、冬場に出荷できる農作物がむずかしい状況であります。ハウスをするにも、積雪でハウスが潰れてしまい、ハウス栽培できない地区も多くあります。白菜・大根などのスーパーに溢れかえった農作物以外で、これから地域の特性を生かした、または積雪の多い地域でも特産となることのできるような農作物を今後検討していきたいという地域の声があります。今までいろいろと検討はされたようですが、うまくいっていないようです。	労働力不足(特に農業に関わる仕事において)が課題としてあります。どのような環境であれば働いてみたいと思うのか、学生の皆さんのご意見を伺えればと思います。	世羅梨ブランドへのご協力をよろしく願います。

平成27年度 教養ゼミ・地域志向インターンシップ 受入れ 市町アンケート

教養ゼミ	世羅高原6次産業ネットワーク	安芸太田町 地域づくり課	安芸太田町 地域づくり課	呉市 豊町市民センター	大崎上島町 役場
良かったところ		学生が中山間地域への関心を持つきっかけとしては良い。 棚田オーナーとして取組みが拡大している。		農業に関心のない人に少しでも、農業やその生活環境を理解していただくためにもいいきっかけになっていると思う。	
改善点		学年・学部を超えた学生間での情報共有。学生が発信源になってほしい。 全学部への取組み拡大。 井仁ではなく、他地域で取り組むべきかも。	興味のない学生について興味を持たせる体験にすることや、的確な指示を出すことが必要であると感じました。一部の生徒は地域の方々にお礼を言って帰校したようですが、授業を受ける態度ではない学生も居たように感じます。		受け入れ側から時間が少し短いとの意見があったのと、内容において調整が必要

インターンシップ	世羅高原6次産業ネットワーク	安芸太田町 地域づくり課	安芸太田町 地域づくり課	呉市 豊町市民センター	大崎上島町 役場
良かったところ	農業を肌で感じてくれたこと。農家民宿を利用してくれたこと。インターンシップ後も何度も訪れてくれる学生もいること。	初めてインターンシップを受け入れ、新たな取組みをスタートさせることができた。1日だけのイベント的な取組みと違い、5日間による地域内での活動により、住民と学生の距離感が近くなった。(夜の交流会も良かった)	1週間という学生には長い期間だったと思うのですが、言われた仕事をきちんと熟してくれたと思っています。特に、他の学部の生徒が参加してくれたことは井仁にとっても役場としても嬉しかったです。		ある程度テーマをしぼっての募集だったので、受け入れ側としても内容を決めやすかった。
改善点	学生の希望が直前まで出てこなかった。受入先も一番忙しい時期なので、実施の1カ月前には決定してほしい。 受入れ団体として、農場や民宿の負担にならないバランスを考慮し、次年度以降に生かしていきます。	単に役務・労務提供的な取組み内容になった。(学生・大学はどのように感じているのか?) 継続的な取組みとなるよう内容を検討。他地域での取組み。	実施時期についてはもう少し協議が必要だったと思っています。学生たちは井仁に関わる体験がしたかったと最後の日に言っていました。できることなら、秋の収穫祭がある10月の第1土曜日に合わせてインターンシップしてもらったらいいと個人的には感じました。		こちらから事前に生徒さんにどのような内容で受け入れるか伝えていなかったもので、来てから伝えた。事前に伝えたことである程度心構えができたのではと反省した。

平成27年度 教養ゼミ・地域志向インターンシップ 受入れ 市町アンケート

広大との連携	世羅高原6次産業ネットワーク	安芸太田町 地域づくり課	安芸太田町 地域づくり課	呉市 豊町市民センター	大崎上島町 役場
良かったところ			体験授業については毎年のことなので、今年度もスムーズに行えたと感じています。		地域のことを知ってもらえる。広大生と地域の人との交流の場となっている。
改善が必要なもの		インターンシップは初めての取り組みであったこともあり、意思疎通ができていなかった。	大学側も町としても初めてのインターンシップであり、大学と地域の連携もとれていないと感じてなりません。		期間・時期についてももう少し調整が必要かもしれない。
連携が強くなったところ	直接お話しできるようになった。		毎年の恒例になっている体験授業について、大学側からきちんとスケジュール等が送られてきており、大学と町の連携が強くなってきていると感じました。		
地域貢献の人材が増加すると感じる理由	何事もきっかけが大事ですから。	大学院生の高橋さんによる個別訪問に繋がっている。	院生の高橋さんたちのような学生たちが授業ではなくて自ら井仁に来て、地域の方と触れ合っている姿を見ると町としてもとてもうれしく、今後地域に何かしらの形で貢献してくれるのではないかと期待しています。		最初は何の気なしに来島した生徒が、離島時には何らかの変化を感じることができる。
広大と連携して、特に取り組みたい地域課題、急いで解決したい問題	後継者不足と高齢化で失われつつある経験を聞き取り調査 繁忙期の援農	学生が中山間地域に関心・興味を持つ入口・きっかけになっていると感じるが、多くの学生は入口に止まっているのではないかと。4年間を通じた学生へのフォローが肝要と感じる。継続的なフォローにより、中山間地域への理解が深まり、入口から奥へと誘うことができるのではないかと。	個人的には、地域でマンパワーが足りてないので、バイト感覚で、草刈りや木の伐採があるときはお手伝いにきてもらえればうれしいと思っています。急いで解決したい問題については地域の意見を優先させてください。	農作物への有害鳥獣被害対策	今回の意見交換の中であった、地元小学生との交流は検討してみたい。